

第6回「にじいろコンサート」 ～心のバリアフリーを目指して～



入場無料!

障がい者や実力派演奏家が参加する音楽コンサートです。「おすそわけ」をテーマに、出演者全員が参加し、みんなで音楽をつくり、楽しめます。

音楽が好きな方はもちろん、初めてコンサートに行くという方も、この機会にすてきな演奏家たちと一緒に、夢のようなひと時を楽しみませんか。皆さんのご来場をお待ちしています。

期日▼10月12日(土)

時間▼午後1時30分～3時30分(午後1時開場)

場所▼東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」

問い合わせ▼障がい福祉課(なごみ・総合支援センター内 ☎287-2525)※事前申し込みは不要です。



ふるさと歴訪 〜自然を探して〜 似て非なるキノコたち

慶應義塾大学准教授

糟谷 大河

石神城址公園や富士神社、笠松運動公園などに広がる森林内に、夏から秋に発生し、白色から淡紅褐色を帯びるテングタケ属のキノコがあります。これらはシロウロコツルタケというキノコと形態的に類似しています。シロウロコツルタケは致死性の猛毒キノコで、白色から淡褐色のかさ表面に、淡紅褐色の鱗片が付きまします。また、かさの縁には放射状に並ぶ短い溝線があり、かさ裏側のひだは白色です。柄は白く表面に綿くず状の鱗片があり、その上部には消失性で白色、膜質のつぼを持ち、柄の基部に袋状のつぼがあります。

これまで、村内に発生するこのような特徴を持つキノコは、一括してシロウロコツルタケであると判断してきました。「東海村の自然誌II」でも、シロウロコツルタケの名前で紹介されています。しかし、最新の研究の結果、過去に村内で採集し、シロウロコツルタケと判断していた全てのキノコが、シロウロコツルタケでないことが明らかとなりま



【シロウロコツルタケに似て非なるキノコ(船場地内)】

ことは、これらのキノコが未知種、すなわち新種の候補である可能性を示しています。村内には、シロウロコツルタケに似て非なる、未知のテングタケ属のキノコが複数潜んでいたのです。身近に見られるキノコでも、深く調べることで新たな発見があり、興味は尽きません。

近年、遺伝子を持つ情報を解析し、生物の進化や類縁関係を推定する手法が発達しています。そこで、村内で得たシロウロコツルタケと思われるキノコの標本から遺伝子を抽出し、その情報を解析しました。その結果、これらの標本の中にシロウロコツルタケに該当するものではありませんでした。それでは、これらは一体、何者なのでしょう。遺伝子の情報から類縁関係を推定したところ、いずれもシロウロコツルタケに近縁であるものの、遺伝的に異なる4つの集団に分かれました。しかも、現在知られているテングタケ属のキノコの遺伝子情報と一致するものではありませんでした。この